

# 1 令和2年度 実験・実習費に関する調査の結果について

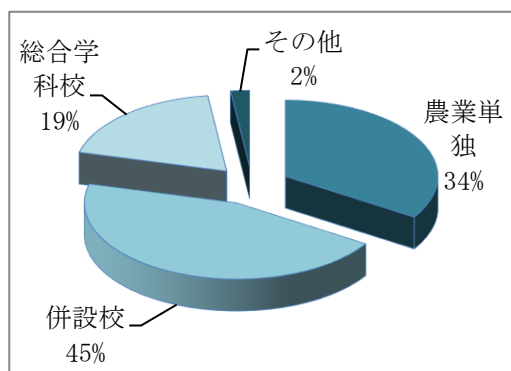
全国高等学校農場協会振興局

## 1 アンケート協力校について

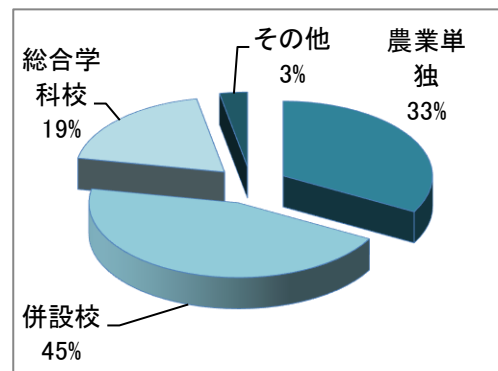
支部名	学校数	農業単独校	併設校	総合学科校	その他
北海道	30	17	7	6	0
東北	52	21	17	14	0
関東	76	17	43	16	0
北信越	35	13	8	13	1
近東	62	21	29	11	0
中国	29	7	17	4	1
四国	29	9	14	5	1
九州	63	21	37	5	0
合計	376	126	173	74	3

## 2 校種

昨年度とほぼ同様の割合であった。



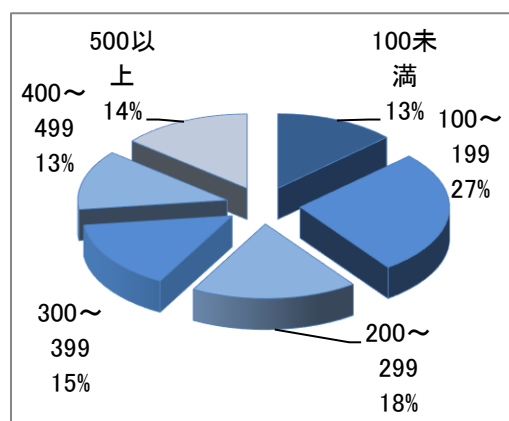
昨年度



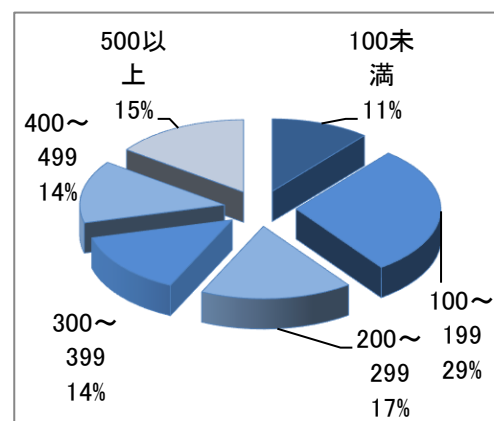
本年度

## 3 学校規模

昨年度とほぼ同様の割合であった。



昨年度

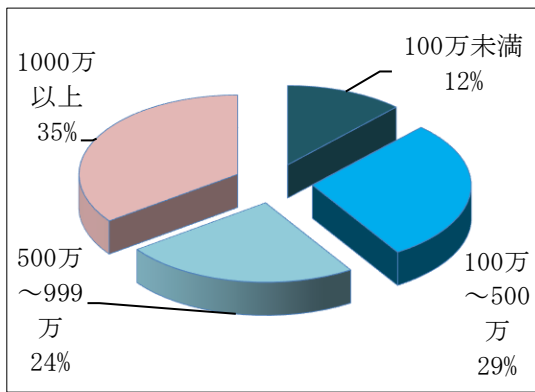


本年度

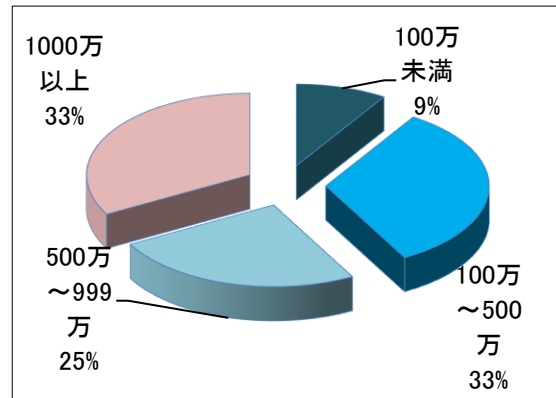
#### 4 収入を伴う実験・実習費について

##### (1) 令和元年度農場売上金額

昨年度とほぼ同様の割合であった。



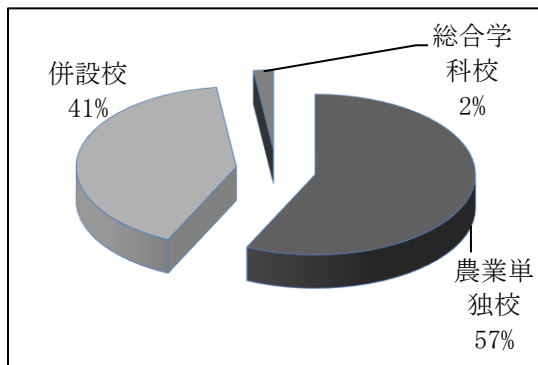
昨年度



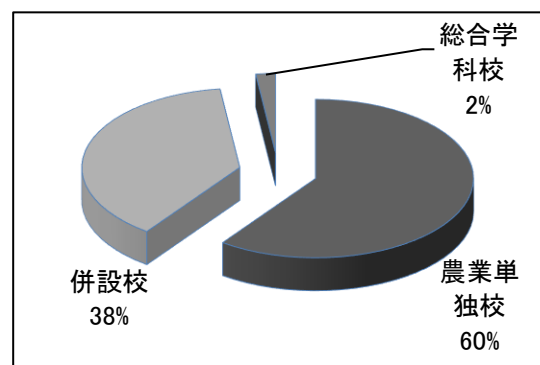
本年度

##### (2) 会計規模の大きな学校の割合

昨年度とほぼ同様の割合であった。



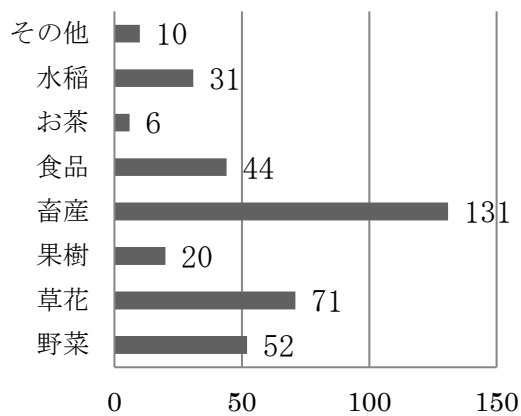
昨年度



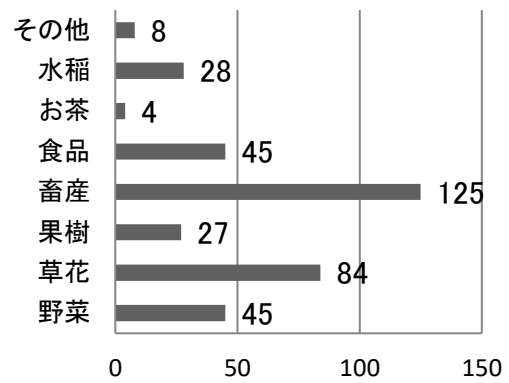
本年度

##### (3) 最も収入の多い分野

最も収入の多い分野は畜産で、昨年とほぼ同様の結果になった。以下、草花、野菜、食品（野菜と同数）が続いた。



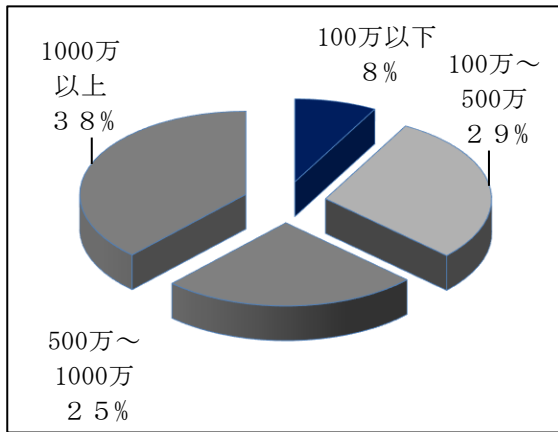
昨年度



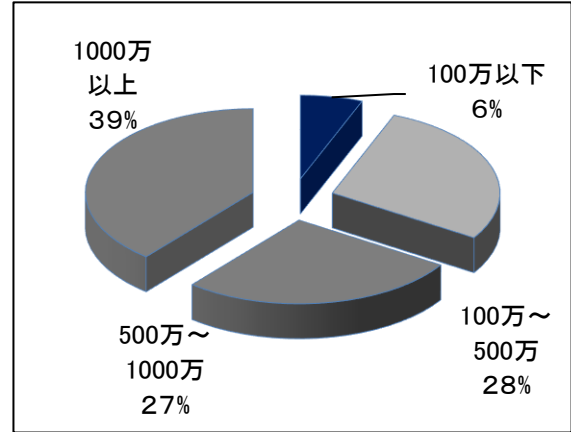
本年度

(4) 令和元年度農場支出金額

昨年度とほぼ同様の割合であった。



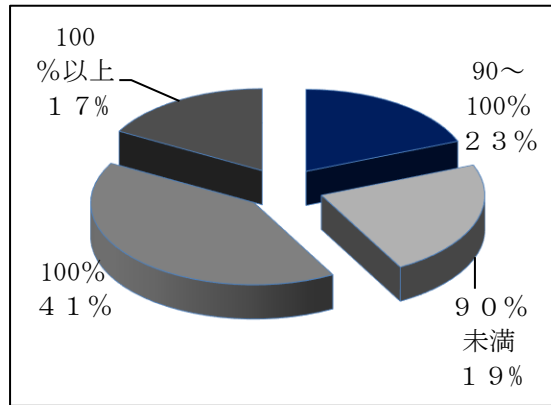
昨年度



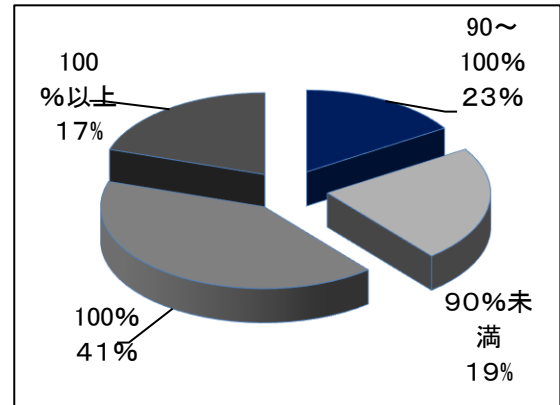
本年度

(5) 支出金額は売上金額の何%ぐらいを目安にしているか。

昨年度とほぼ同様の割合であった。



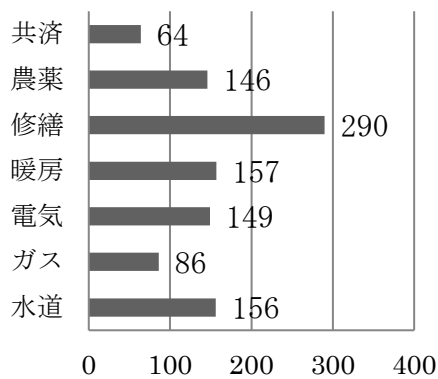
昨年度



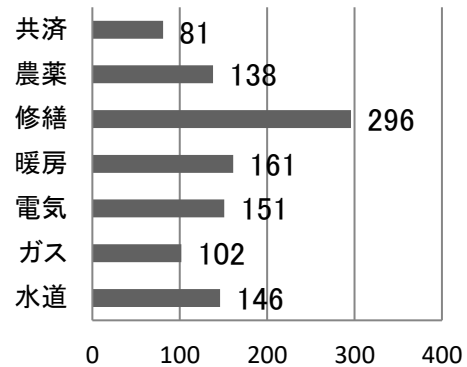
本年度

(6) 農場共通経費について

昨年度同様、「修繕費」が最も多かった。次に、「暖房代」、「電気代」、「水道代」、「農薬代」、「ガス代」の順で多かった。



昨年度



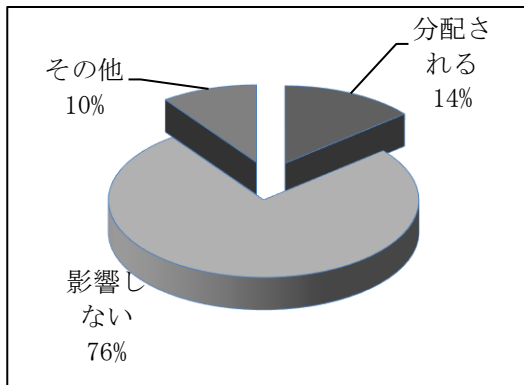
本年度

(7) 農場共通経費に関する主な意見

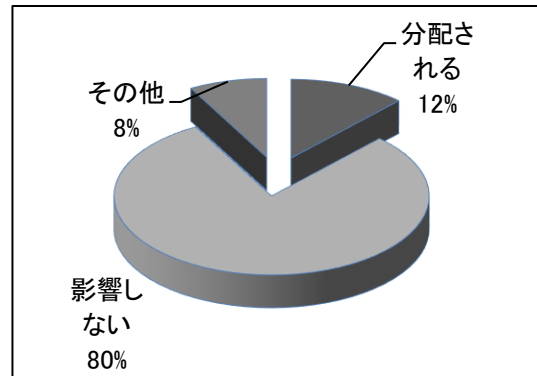
- ・施設設備及び機械、車両の老朽化により、年々修繕費が多くかかり、修繕費の増額を強く希望する。会計全体の金額が低下し、車両維持費が不十分である。
- ・燃料費、光熱水費の負担が大きい。公用車の保険内容を充実させてほしい。
- ・職員減や教育課程の変更等で外部委託する作業が増え、経費がかさみ、負担が大きい。
- ・農場規模の縮小により、共通経費の捻出が困難になりつつある。
- ・畜産部は、飼料代の高騰により、経費の運営が厳しい。等

(8) 農場売上金額が予定額を上回った場合、当年度予算に増額して分配されますか。

昨年度とほぼ同様の割合であった。



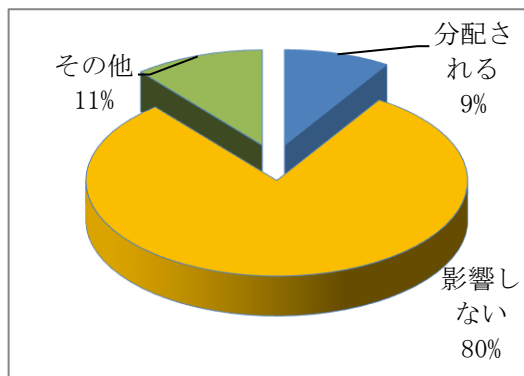
昨年度



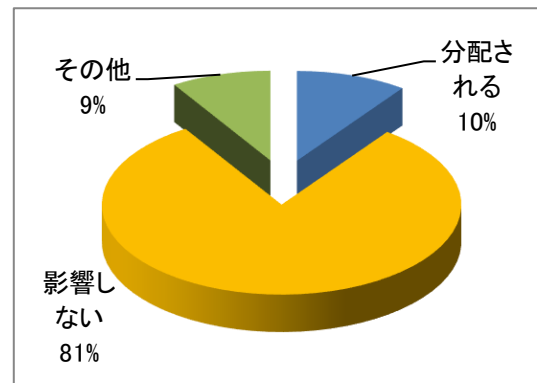
本年度

(9) 農場売上金額が予定額を上回った場合、次年度予算に増額して分配されますか。

昨年度とほぼ同様の割合であった。



昨年度



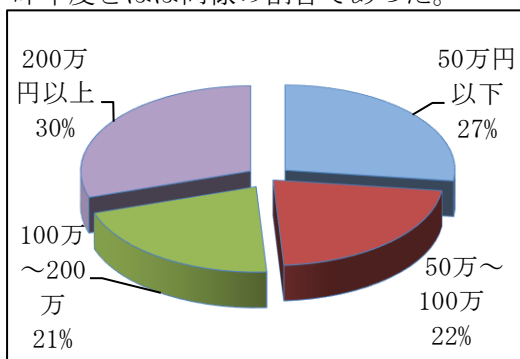
本年度

5 収入を伴わない実験・実習費について

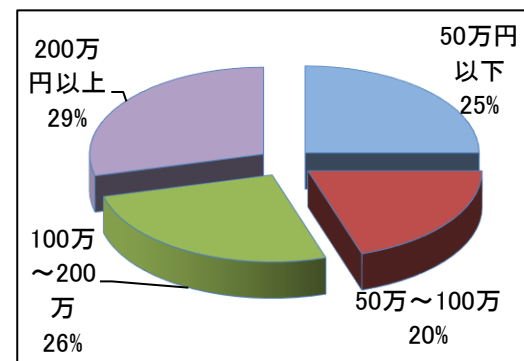
(1) 農業単独校

ア 会計規模

昨年度とほぼ同様の割合であった。

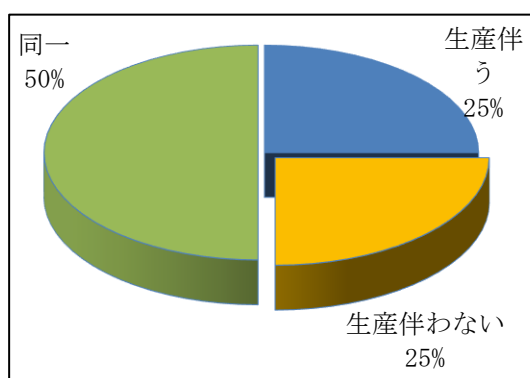


昨年度

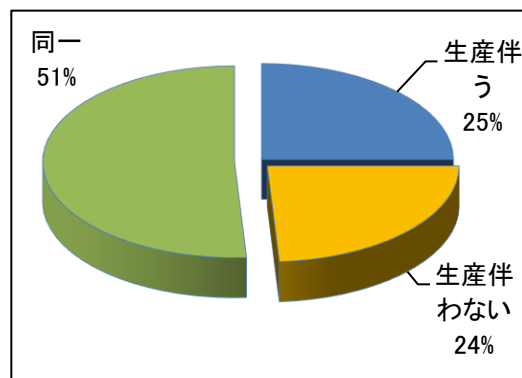


本年度

イ 農業単独校における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）  
 昨年度とほぼ同様の割合であった。

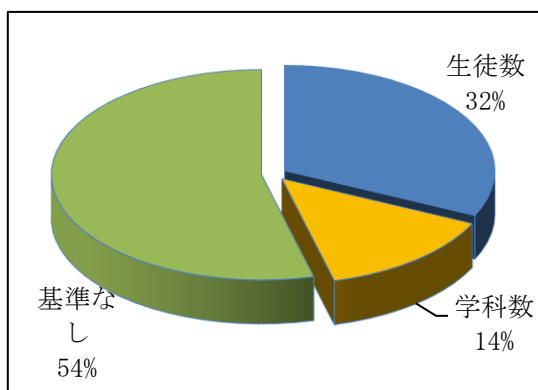


昨年度

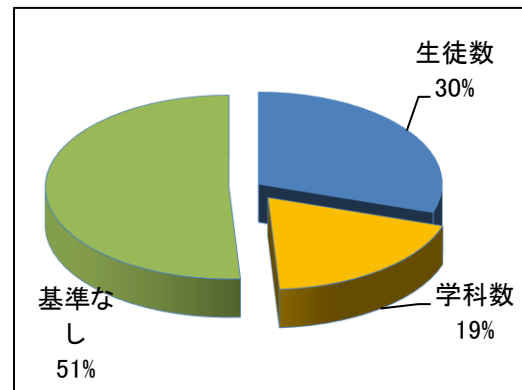


本年度

ウ 分配基準について  
 「学科数」の割合が増加した。



昨年度

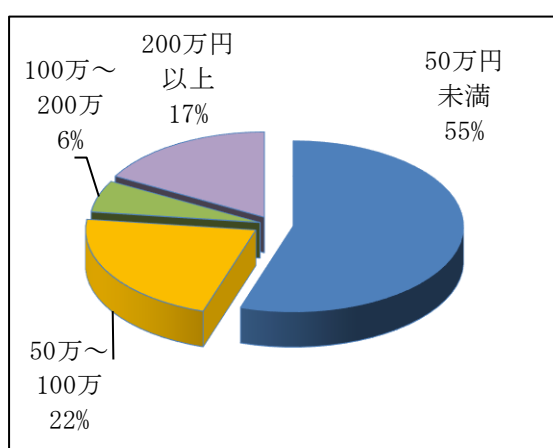


本年度

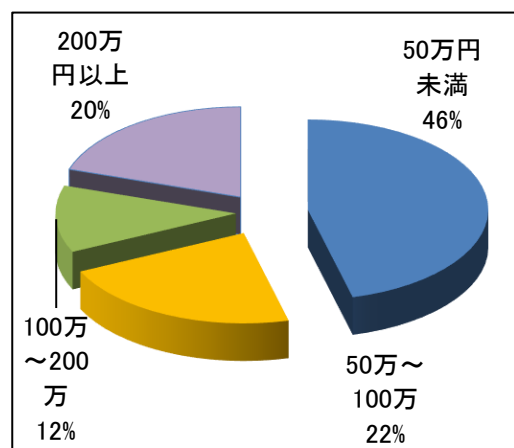
(2) 併設校および総合学科校における学科の比較

ア 会計規模

50万円未満の割合が減少した。

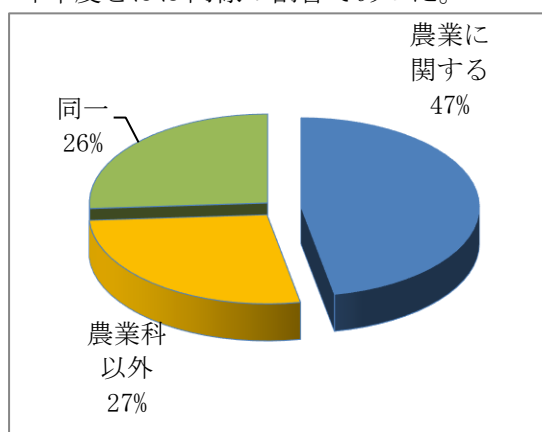


昨年度

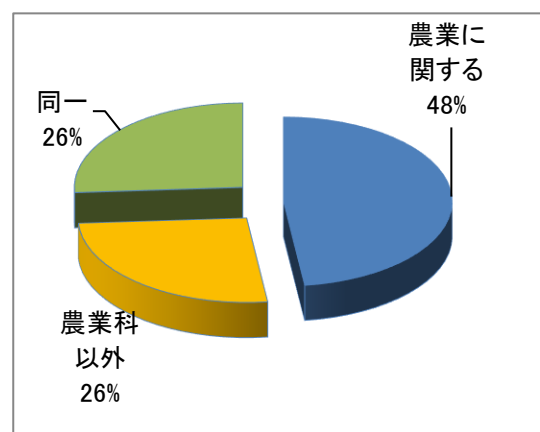


本年度

イ 併設校及び総合学科における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）  
 昨年度とほぼ同様の割合であった。

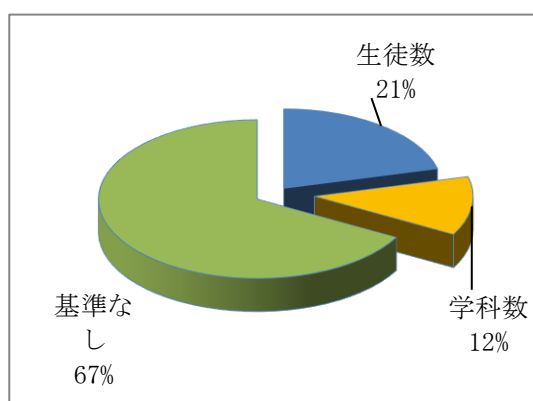


昨年度

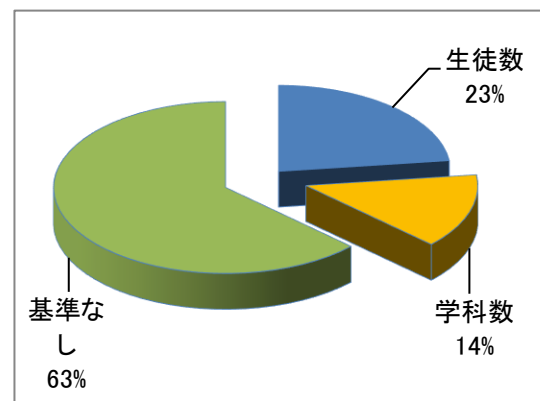


本年度

ウ 併設校及び総合学科校の配分基準  
 昨年度とほぼ同様の割合であった。



昨年度



本年度

## 6 まとめ

- (1) 収入を伴う実験・実習の農場売上金額については、昨年度とほぼ同様の割合であった。
- (2) 最も収入の多い分野は畜産で、草花、野菜、食品（野菜と同数）が続いた。
- (3) 共通経費は修繕費が最も多く、暖房代や電気代、水道代、ガス代などのランニングコストに当てられるケースが多かった。また、燃料代・資材費・餌代の値上げや施設設備、機械、車両の老朽化に伴う修繕費の増加等により、運営が厳しいとする意見が多かった。
- (4) 収入を伴わない実験・実習費では、併設校および総合学科校における学科は、農業単独校と比べ会計規模は全体的に小さい。
- (5) 外部委託（農場管理嘱託員）の委託料の捻出に困っているところがあった。
- (6) 車両経費が不十分で、作業用車両（トラック等）が不足しているところがあった。